

相模原看護専門学校

令和2年度 一般入学試験

【国語】

問題一 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

障子や襖あるいは衝立など日本の「しきり」は、相互に気配を感じさせることに特徴があった。こうしたしきりがなぜ特徴的に出現したかという理由は、¹にわかには断定するわけにいかないが、日本の住宅が大きく外気を取り込むために、柱と柱の間を開口部にするという構成がとられたことの結果として可動かつ軽やかなしきりとなった。なぜ、大きく外気を取り込むような構造になったのかは、これもまた理由を断定するわけにはいかないが、一般的には、外気を取り込む方が^a快デキであった、つまりよく知られるように「²夏を旨とした」からなのだろう。

外気を調整する襖、外気を調整しながら明かりを採る明障子、簡易的に空間を遮断する屏風などの衝立は、いずれも可動的なしきりである。それを取り払うか、開ければ空間は繋がってしまう。続き間であれば、襖を外せば、大きな部屋になる。庭側の襖をあげれば縁側の先の庭（外部空間）にまで広がる。このような開放的な空間に生活することは、生活の仕方や人間関係にも何らかの影響を与えているはずである。

もちろん、物理的な環境が、人々の意識や感覚あるいは人間関係を全面的に決定しているわけではない。したがって、物理的な環境や道具や装置が変化すれば、人間の意識や感覚がかならず変化するとは言いつてもいい。しかし、物理的な環境や道具や装置のあり方が、わたしたちに影響を与えることは否定できないし、それらの変化は、わたしたちの意識や感覚の変化を引き起こす可能性を持っているとはいえるだろう。

可動的なしきりを中心としたかつての日本の住宅は、家族内においてだけでなく、外部に向かっても、比較的開放されたものになっている。入りやすい縁側や土間でやって来た人と対応する。³「A」婚葬「B」なども、襖を取り払って続き間で対応する。そうした生活の仕方が、開放的な住まいによって生まれた。

こうした開放的なしきりによって構成される日本の住宅では、襖や障子や衝立といったしきりの向こう側にいる人の気配をつねに感じながら生活することになる。ゆるやかなしきりの中で生活するためには、家族間、あるいは人々へのなにかの配慮が必要になってくる。その配慮は、いわば「⁴しきたり」の形成に少なからずかわっただろう。たとえば、「盗み聞き」「盗み見」は、⁵浅ましい行為とされただろうし、偶然聞いたことや見たことは他言しないものであったろうし、また逆に、大声もあまり好ましく思われなかっただろう。さまざまな配慮が生活の仕方に反映されていたはずである。

つまり、そうした気配を感じさせるようなしきりは、日本における人間関係のあり方を反映していたはずだ。しかし、それまでのしきりの意味と人間関係がどういうものであったのかということや、わたしたちは近代の住まいを急速に変化させてきた。すでにふれたように、一九二〇年代に ^b 提シヨウされた住宅構成の提案は、その後の日本の住まいを大きく変化させていくひとつの要因となった。襖でしきる日本の住宅は、I を守ることができないので、真ん中に廊下（中廊下）を設け、壁でしきった個室をつくるべきだという提案である。

日本には欧米で考えられた近代的 I の概念はなかったが、個々人を ^c 尊チヨウする「配慮」はあったはずである。そのことに目を向けることなく、とりわけ第二次大戦後、日本の住宅は中廊下式の個室でしきった構成へと急速に変化していった。

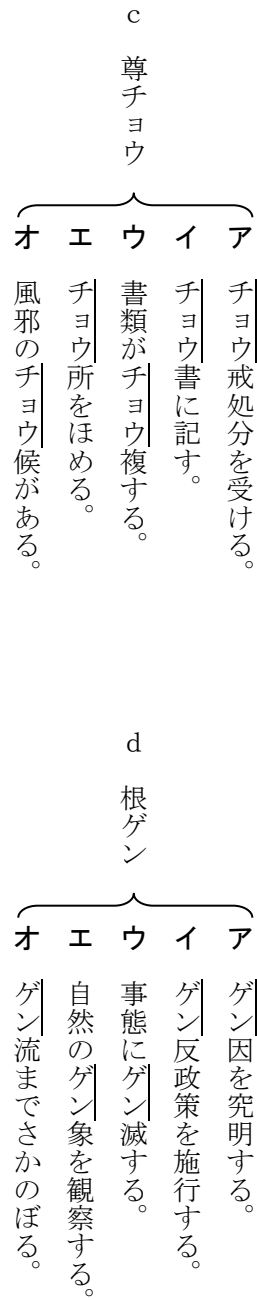
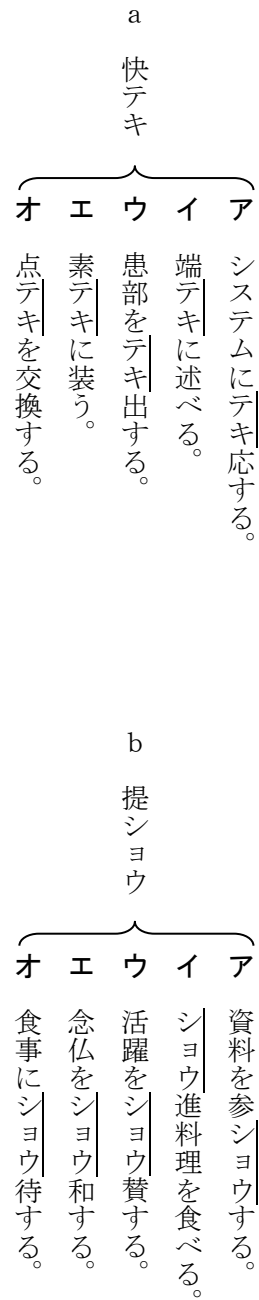
現在では、いわゆるマンションのような集合住宅でも、ドアを開けると、玄関のむこうには中廊下が延びており、個室が閉ざされているのが見えるだけだ。訪問者にとっては、きわめて閉鎖的である。強固にしきられているのである。こうした強固にしきられた閉鎖的な住まいが、現在の日本の住まいの平均的な構成になっている。この閉鎖性は、家族の構成員の間にも個室という形で反映されているし、外部の人にとっても廊下以外は見せないという形で反映されている。このような強固にしきられた住まいでは、かつてのような人々の「配慮」の感覚は必要なくなるだろうし、すでに忘れられてしまったといえるだろう。そのことが、人間関係のあり方にも反映しているのではないだろうか。

良し悪しはおくとして、住まいの一部を中廊下式にせず、縁側や土間など外部の人に対して開放的なものにし、引き戸で II しきりにすることによって、少なくとも、訪問者（外部）には拒絶的で閉鎖的な印象を与えなくなる。また、家族の中でも相互に強固にしきられない場所があることが意識されるだろう。それが、はたして新たな人間関係を確実に形成するとはいえないが、生活の仕方は変化するだろう。

わたしたちの生活は、^d 住まいにかぎらず、多様な次元で無数のしきりによって成り立っている。しきりこそ、わたしたちの生活の中でのひとつの ^d 根ゲンの概念であり装置であり、思考の方法でもある。したがって、⁶ しきりについて考えることは、わたしたちの生活や、わたしたち自身について考えることでもある。

（柏木博『「しきり」の文化論』より）

問一 傍線部 a～d のカタカナと同じ漢字を使うものを、ア～オの中からそれぞれ一つずつ選べ。



問二 傍線部 1 「にわか」の意味に最も近いもの一つ選べ。

- ア 安易に イ 即座に ウ 正確に エ 必ずしも オ 明快に

問三 傍線部 2 「夏を旨とした」の内容を説明しているもの一つ選べ。

- ア 家を建てるときは、通気性を中心に考えた。
イ 家を設計するときは、景観を中心に考えた。
ウ 家を建てるときは、庭との連続性を中心に考えた。
エ 家を設計するときは、季節感を中心に考えた。
オ 家を設計するときは、相互の気配を中心に考えた。

問四 傍線部3 「[A]婚葬[B]」の空欄に入る語をそれぞれ一つずつ選べ。

- A ア 祝 イ 札 ウ 結 エ 冠
B ア 儀 イ 送 ウ 祭 エ 列

問五 傍線部4 「しきたり」の解釈にふさわしくないもの一つ選べ。

- A ルール イ 掟 ウ 付度 エ タブー オ 罰則

問六 傍線部5 「浅ましい」の解釈にふさわしくないもの一つ選べ。

- A 不躰 イ 卑劣 ウ 下品 エ 中傷 オ 浅薄

問七 空欄 I に入る最もふさわしい語の一つ選べ。

- A アイデンティティ イ テリトリー ウ ヒューマニズム エ イデオロギー オ プライバシー

問八 空欄 II に入る最もふさわしい語の一つ選べ。

- A 固定的な イ 曖昧な ウ 開放的な エ 自由な オ 便利な

問九 傍線部6 「しきりに」について考えることは、わたしたちの生活や、わたしたち自身について考えることでもある」とはどういうことか。最もふさわしい選択肢を一つ選べ。

- A 日本の住宅は、戦後、しきりが強固になったので、外部に対して拒絶的になっている。
I 開放的な空間と閉鎖的な空間を比較することによって、日本人の心理構造の変化を考えられる。
U 簡易的に空間を遮断する可動的なしきりが、そこで生活する人の意識や感覚を決定し得る。
E 空間をしきることは人間関係をしきることであると同時に、他者に配慮する心性を形成できる。
O 各時代の生活様式の中で、しきりは象徴的な装置なので、その時代の人間の感情を把握できる可能性がある。

問十 本文の内容に合致しない選択肢を一つ選べ。

ア 障子や襖、衝立でしきられていた日本の住宅では、家族といえどもお互いの気配に配慮しながら生活しなければならなかった。

イ かつての日本の住宅では、庭側の襖を開ければそのまま縁側の先にまで広がっていたので、外部空間とのしきりがなく、近所とのしきりもなかった。

ウ 可動的なしきりを中心としたかつての日本の住宅では、縁側や土間があることによって外部の人に対して開かれていた。

エ 戦後の日本では、集合住宅では個室によって強固なしきりが生まれ、それが外部の人に対して閉鎖的になっており、家族間の配慮も薄れていると考えられる。

オ かつての日本の住宅では、夏の暑さを心地よく過ごすために風通しを重視した家作りをしたので、しきりは簡易的になった。

問題一 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

日本文化のなかで文学と造形美術の役割は重要である。各時代の日本人は、抽象的な思弁哲学のなかでも主として具体的な文学作品のなかで、その思想を表現してきた。たとえば『¹万葉集』は同時代の仏教のどんな理論的著述よりも、奈良時代の人間のものの考え方をはるかに ^a 明リヨウにあらわしていたといえるだろう。 ² 撰関時代の宮廷文化は、高度に洗練された和歌や物語を生み出したが、独創的な哲学の体系をつくり出しはしなかった。鎌倉仏教は、おそらく徳川時代の ^b ジュ学の一部分と共に、日本史の例外である。しかし法然や道元の宗教哲学は、その後体系として完成されたのではないし、仁斎や徂徠の古学は、その後の思想家に大きな影響をあたえたけれども、より ³ 抽象的であり包括的な思惟を生みだしたのではない。日本の文化の争うべからざる傾向は、抽象的・体系的・理性的な言葉の秩序を建設することよりも、具体的・非体系的・感情的な人生の特殊な場面に即して、言葉を用いることであつたようである。

他方、 ⁴ 日本人の感覚的世界は、抽象的な音楽においてよりも、主として造形美術、殊に具体的な工芸的作品に表現された。たとえば撰関時代の芸術家は、仏像彫刻と絵巻物に、そのおどろくべき独創性を發揮していた。しかし ^c 声明や ^c ガ楽に、日本人の独創がどの程度まで加えられていたかは疑わしい。たしかに室町時代は能の、徳川時代は浄瑠璃の音楽をつくつたが、一度つくり出された音楽の様式のその後の発展は、わずかなものにすぎなかつた。室町時代に水墨画をとり入れ、狩野派を發展させ、一方では南画に到り、他方では大和絵の系統を ^d ユウ合せながら、琳派の絢爛たる開花に及び、遂に浮世絵木版を生んだ絵画の歴史とはくらべることができないだろう。日本の文化は、ここでも、楽音という人工的な素材の組合せにより構造的な秩序をつくり出すことよりも、日常眼にふれるところの花や松や人物を描き、工芸的な日用品を美的に洗練することに優れていたのである。

文化の中心には文学と美術があつた。おそらく日本文化の全体が、日常生活の現実と密接に係り、 ⁵ 遠く地上を離れて形而上学的天空に舞いあがることをきらつたからであろう。このような性質は、地中海の古典時代や西欧の中世の文化の性質とは著しくちがう。西洋にはやがて近代の観念論にまで發展したところの抽象的で包括的な哲学があり、またやがて近代の器樂的世界にまで及ぶだろう多声的音楽があつた。中世の文化の中心は、文学でも、工芸的美術でもなく、宗教哲学であり、その具体的表現としての大伽藍である。絵画・彫刻は、その伽藍を飾り、「ミステリー」はその前の広場で演じられ、音楽はその内側に鳴り響

いていた。同時代の日本では、仏教の盛時にさえも、美術が仏教とばかりではなく、世俗的な文学とむすびつき、音楽も宗教的儀式とよりは、劇や世俗的な歌謡の言葉と連なっていた。日本の文学は、少くともある程度まで、西洋の哲学の役割を荷い（思想の主要な表現手段）、同時に、西洋の場合とはくらべものにならないほど大きな影響を美術にあたえ、また西洋中世の神学が芸術をその僕としたように、音楽さえもみずからの僕としていたのである。日本では、文学史が、日本の思想と感受性の歴史を、かなりの程度まで、代表する。

もちろん中国では、文学と美術（殊に絵画）との関係が書を⁷カ|イして、しばしば密接不可分であった。音楽もまた文学から独立して西洋でのような器楽的發展を遂げたのではない。そのかぎりでは、⁸日|中文化の間に、一方から他方への影響を別にして考えても、少くとも表面上の類似がめだつ。中国はすぐれて文学の国であった。しかし二つの文化が決定的にちがうのは、中国的伝統のなかでは、包括的体系への意志が、宋代の朱子学にも典型的なように、徹底していたということである。朱子学的綜合は、日本では到底成立するはずがなかった。ということは、また、徳川時代のはじめに幕府の公式の教学として採用された宋学が、一世紀足らずの間に日本化されたことから知られる。日本化の内容は、まさに包括的体系の分解であり、形而上学的世界観の実践倫理と政治学への還元ということであった。

中国人は普遍的な原理から出発して具体的な場合に到り、先ず全体をとって部分を包もうとする。日本人は具体的な場合に執してその特殊性を重んじ、部分から始めて全体に到ろうとする。文学が日本文化に重きをなす事情は、中国文化に重きをなす所以と同じではない。比喩的にいえば、日本では哲学の役割まで文学が代行し、中国では文学さえも哲学的となったのである。

（加藤周一『日本文学史序説』より）

問一 傍線部 a～d のカタカナと同じ漢字を使うものを、ア～オの中からそれぞれ一つずつ選べ。

a 明リヨウ				
ア	イ	ウ	エ	オ
大学のリヨウ生になる。	閑リヨウを集める。	見れば一目リヨウ然だ。	器リヨウがよい。	歯を治リヨウする。
b ジユ学				
ア	イ	ウ	エ	オ
ジユ教の影響がある。	石油のジユ要が増える。	平均ジユ命が伸びる。	訴状をジユ理する。	大願を成ジユする。

c ガ楽				
ア	イ	ウ	エ	オ
自ガを確立する。	優ガに暮らす。	ガ状を書く。	飢ガに苦しむ。	組織がガ解する。
d ユウ合				
ア	イ	ウ	エ	オ
余ユウを持つ。	高等ユウ民を描く。	事ユウを問う。	ユウ姿に憧れる。	金ユウを緩和する。

問二 傍線部 1 「万葉集」について答えなさい。

(1) 次のア～オの中から、「万葉集」の歌人でないものを一つ選べ。

- ア 柿本人麻呂 イ 大伴家持 ウ 山部赤人 エ 紀貫之 オ 額田王

(2) 次のア～カの中から、「万葉集」の和歌を二つ選べ。解答の順序は問わない。

- ア 田子の浦ゆうち出でて見れば真白にそ不尽の高嶺に雪は降りける
イ 月やあらぬ春は昔の春ならぬわが身一つはもとの身にして
ウ やは肌のあつき血汐にふれもみでさびしからずや道を説く君
エ いちはつの花咲きいでて我目には今年ばかりの春行かんとす
オ わが宿のいささ群竹吹く風の音のかそけきこの夕かも
カ 秋の夜も名のみなりけり逢ふといへば事ぞともなく明けぬるものを

問三 傍線部2「摂関時代の宮廷文化」に当てはまらないものを、次の中から一つ選べ。

- ア 伊勢物語 イ 源氏物語 ウ 古今和歌集 エ 徒然草 オ 枕草子

問四 傍線部3「抽象的であり包括的な思惟」の意味に最も近いものを、次の中から一つ選べ。

- ア 芸術 イ 哲学 ウ 文化 エ 文学 オ 学問

問五 傍線部4「日本人の感覚的世界」の説明に最も合うものを、次の中から一つ選べ。

- ア 仏像彫刻と絵巻物に日本人の独創性が伝承されている。
イ 楽音を組み合わせる日本人の感性を美的に洗練させている。
ウ 能や浄瑠璃を日本の伝統的な音楽様式にした。
エ 日本の絵画は日常的な花や松や人物を描いている。
オ 日本の浮世絵木版は世界の絵画史とは比べものにならない。

問六 傍線部5「遠く地上を離れて形而上学的天空に舞いあがること」に最も意味が近いものを、次の中から一つ選べ。

- ア 器楽的世界 イ 宗教的儀式 ウ ミステリー エ 大伽藍 オ 観念論

問七 傍線部6「音楽さえもみずからの僕としていたのである」の内容に合致するものを、次の中から一つ選べ。

- ア 音楽は大伽藍の内側で鳴り響いていた。
- イ 近代の器楽の世界にまで及ぶ多声的音楽があった。
- ウ 音楽は劇や世俗的な歌謡の言葉と連なっていた。
- エ 抽象的な音楽よりも造形美術が主であった。
- オ 楽音を人工的な素材として構造的な秩序をつくり出した。

問八 傍線部7「カイ」を漢字に直すとき、同じ漢字を使わないものを、次の中から一つ選べ。

- ア 紹カイ
- イ 媒カイ
- ウ 塵カイ
- エ 仲カイ
- オ 厄カイ

問九 傍線部8「日中文化」について、本文の内容と合致しないものを、次の中から一つ選べ。

- ア 中国と日本は双方ともに文学が文化の中心だった。
- イ 日本の哲学は中国の形而上学的世界観を实践倫理に還元した。
- ウ 日本の文化は中国から影響を受けている。
- エ 中国の伝統は形而上学的世界観の構築にある。
- オ 中国人は演繹法的に思考するが日本人は帰納法的に思考する。

問十 次の中から、本文の内容に合致しないものを一つ選べ。

- ア 日本の文学史は、思想と感受性の歴史をかなりの程度まで代表しているので、日本人の感情を独創的な言葉を用いて表している。
- イ 西欧の中世の文化は、宗教哲学としての神学が美術や音楽を導き、宗教的な儀式と結びついていた。
- ウ 日本の音楽的様式の発展はわずかなものにすぎなかったが、絵画の歴史は工芸品もふくめ、日常を美的に描き洗練した。

エ 日本の歴史の中で、鎌倉時代と徳川時代には、例外的に宗教哲学や古学があらわれたが、体系化はされなかった。

オ 日本の文化の特徴は、抽象的に表現することよりも、具体的に表現することにあつたので、文学と美術にそれがあらわれている。